

## IV 学習指導計画実践事例

### 1 実践事例1 <保健学習> 体育科（保健領域）学習指導案

平成29年12月8日（金） 第5時限 4年2組教室  
 男子 13名 女子 13名 計26名  
 久喜市立本町小学校 教諭 犬浦 佑（T1）  
 養護教諭 木本 恵理子（T2）

#### 1 単元名 「育ちゆく体とわたし」

#### 2 単元について

本単元は、体の発育・発達について、年齢に伴う変化及び個人差、思春期の体の変化について理解できるようにすること、体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方について理解できるようにすることをねらいとしている。

また、「性に関する指導」のねらいは、人間尊重、男女平等の精神の徹底を図るとともに、人間の性に関する基礎的・基本的事項を正しく理解させ、同性と異性との人間関係や現在及び将来の生活において直面する性に関する諸問題に対して適切な意思決定や行動選択ができることとしている。

そこで、本単元では、自分の体の発育・発達について、発達の段階に応じた確かな知識と習得した知識の活用をめざし、自分の体の変化や個人による発育の違いなどについては、自分のこととして実感させ肯定的に受け止めさせるよう配慮する。この学習内容は中学校の保健体育科保健分野「心身の機能の発達と心の健康」の学習内容へとつながる単元である。

#### 3 児童の実態

##### (1) 一般的な児童の実態

本学級の児童は男子13名、女子13名の合計26名の元気で活発な児童たちである。男女の仲も良いが10歳という年齢に差し掛かり、男子は男子のみと、女子は女子のみと遊ぶ傾向が強くなっている。少しずつ男女の差に気づきはじめ、グループワークでも男子は男子同士で意見をまとめ、女子は女子同士で意見をまとめたりするなど積極的な意見の交流の妨げになってしまっている場面もたびたび目にする。男子と女子の成長には違いがあることを理解し、お互いを理解しあえるような指導をしていく必要がある。

##### (2) 本単元に関わる児童の実態（アンケート調査から）

平成29年11月1日（水）実施

	はい	いいえ
1 体育の保健の学習は好きですか	21	5
2 健康は大切だと思いますか。	24	2
3 大人と子どものからだはどこがちがうと思いますか。 ○身長 14人 ○体重 8人 ○手の大きさ 7人 ○力 5人 ○体の丈夫さ 3人 ○体力 1人 ○髭が生えている 1人 ○わきの下に毛がある 1人 ○胸がふくらむ 2人		
4 自分の体が大人に近づいてきたと感じることはありますか。	4	22
5 (4ではいと答えた人) それはどんなとき・どんなことですか。 ○身長がお母さんやお父さんの身長に近づいたとき 3人		
6 (4ではいと答えた人) それについて何か不安に思ったり、悩んだりすることはありますか。	0	3
7 お家の人と自分の体の成長について話をしたことがありますか。	13	13
8① 異性と意識せずに手をつなぐことができる。	5	21
8② 男子と女子で意見が合わないことがある。	25	1
8③ 異性と話すことは、はずかしい。	7	19
8④ 友だちとの会話で異性の話題がでることがある。	9	17
8⑤ 異性にちょっかいを出しておこらせてしまうことがある。	6	20
8⑥ 異性の前では、話せなくなってしまうことがある。	9	17
8⑦ 異性ともっと親しくなりたいと思う。	17	9
9 自分の体の成長について学習することはどれくらい大切か。 -5（まったく大切だと思わない）～ 5（とても大切だと思う）	平均3.3	

事前アンケートの結果から、概ね保健学習に意欲的な児童が多いことがわかり、そのほとんどの児童が健康が大切であるということを知っている。

本単元にかかわる体の変化については身長や体重など目に見える変化に意識がかたよっていることが分かった。また、体の変化に対しては、まだ実感を伴った変化を感じている児童は少ない。また、「自分の成長」について学習する大切さも、数値化すると児童の関心はそこまで高いとは言えない。このことから「自分の成長」について不安に思ったり悩んだりすることがない児童にとっては、本単元での学習を他人事として捉えてしまう可能性もある。本単元では、体の成長と心の変化が密接にかかわっていることにも触れていきながら、これからの体と心の変化を自分ごととして捉え、正しい知識を実践的に理解し、自らの生活行動や身近な学習課題を把握し、改善することができる資質や能力の基礎を身につけていきたい。

#### 4 教師の指導観

保健学習においては、①基礎的・基本的な知識を正しく身に付けること、②今ある認識や身に付けた知識を生かして思考を促すことの相互活動によって「学習内容の定着」「実感の伴った理解」に結びつくと考える。そのために、下記の具体的な手立てを行う。

- 単元の導入場面では、単元全体の学習内容について見通しをもたせるとともに、保護者アンケートを活用することで、これから迎える体と心の変化をより身近に感じられるようにする。
- 現在、育児休業中の本校職員と赤ちゃんに協力してもらい、実際の乳児と触れ合うことを通して、手足の大きさや身長、体重などが年齢に伴って変化していることをより実感させやすくする。
- 体は年齢に伴って成長すること、体つきや体の成長には個人差があることを理解させるために、伸長の伸びをグラフにする活動を取り入れたり、自分の伸びが示されたりポンを友だちと比べたりしながら自分のこととして実感させる。
- 自分や友だちの体について恥ずかしく感じるため、学習をクイズ化、ゲーム化して恥ずかしさを和らげる。
- 身近な日常生活の体験についての事例を、保護者アンケートを用いながら取り入れることで、児童が体の変化を身近なこととして、また自分のこととして、より肯定的に受け止められるよう配慮する。
- 児童の思考が整理でき、指導と評価の一体化が図られるようなワークシートを工夫する。

また、児童の学習に対する興味や関心を高めたり、児童の実態に合った支援をより効果的に行ったりするため、養護教諭とチームティーチング（TT）で授業を行う。特に、体の発育・発達については養護教諭のもっている専門性を十分に活用しながら授業展開を行っていく。このことをきっかけに、この時期から少しずつおとずれる体の変化に対して、児童がもっている悩みを養護教諭へ相談しやすくできるとも考える。

#### 5 単元の目標

- (1) 体の発育・発達について関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。【関心・意欲・態度】
- (2) 体の発育・発達について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、実践的に考え、判断し、それを表すことができるようにする。【思考・判断】
- (3) 体の発育・発達、思春期の体の変化、よりよく発育・発達させるための生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解することができるようにする。【知識・理解】

#### 6 評価規準

	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
関心 意欲 態度	体の発育・発達について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①体の発育・発達について教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 ②体の発育・発達について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。
思考 判断	体の発育・発達について課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している。	①体の発育・発達について、資料や友だちの話など基に課題や解決の方法を見つけたり選んだりするなどしてそれらを説明している。 ②体の発育・発達について、学習したことを自分の成長や生活と比べたり、関係を見つけたりするなどして、それらを説明している。
知識 理解	体の年齢に伴う変化や個人差、思春期の体の変化、よりよ	①体の年齢に伴う変化や個人差について理解したことを言ったり、書いたりしている。

<p>く発育・発達させるための生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p>	<p>②思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男女の特徴が表れることについて、言ったり、書いたりしている。</p> <p>③思春期には、初経、精通などが起こること、異性への関心も芽生えること、これらは、個人によって早い遅いはあるものの誰にでも起こる大人の体に近づく現象であることについて、書いている。</p> <p>④体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であることについて、書いている。</p>
---	--

7 単元の指導と評価計画（全4時間） 本時は○印

時	学習のねらい・活動	関・意・態	思・判	知・理	評価方法
①	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の発育・発達について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとすることができる。</li> <li>・体の年齢に伴う変化や個人差について理解したことを言ったり、書いたりすることができる。</li> </ul> <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 わたしはだれでしょうクイズをする。</li> <li>2 実際の赤ちゃんに触れあいながら、自身の成長について考える。</li> <li>3 1年毎の身長伸びを示した紙テープ（すくすくテープ）を見て、これまでの身長伸びを記入し、これからの自分の身長を予想する。</li> </ol> <p>&lt;指導すべき内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身長や体重は、年齢に伴って変化すること。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>4 1年毎の身長伸び毎に紙テープを切り取り、学習カードにはる。</li> <li>5 友だちと比較して気付いたことを話し合う。</li> <li>6 教科書や先生の身長伸びを示したデータ資料で、身長伸び方について確認する。</li> <li>7 身長が急に伸びる時期や変化する量は一人一人違うことを知るとともに、体重も増えていくことを知る。</li> </ol> <p>&lt;指導すべき内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の変化には個人差があること。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>8 学習のまとめをする。</li> </ol>		①	①	<p>話し合い活動の観察 ワークシート記入内容</p> <p>観察・ ワークシート記入内容</p>
2	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の発育・発達について、学習したことを自分の成長や生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明することができる。</li> <li>・思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男女の特徴が現れることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができる。</li> </ul> <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「体つきクイズ」を行い、男女の体つきの違い（体の外側の変化）について考える。</li> <li>2 「思春期の体の変化キーワードゲーム」をしながら、思春期に起こる変化について話し合う。</li> </ol> <p>&lt;指導すべき内容&gt;</p>				

	<p>・思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いはあるものの、男子はがっちりとした体つきに、女子は丸みのある体つきになるなど男女の特徴が現れること。</p> <p>・思春期には、変声、発毛が起こること。</p> <p>3 データ資料をみて、体の変化が起こる時期については、個人差があることを知る。</p> <p>＜指導すべき内容＞</p> <p>・個人によって早い遅いがあるものの誰にでも起こる、大人の体に近づく現象であること。</p> <p>4 自分の成長を想像する。</p> <p>5 成長について個人差を感じた体験談を聞く。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p>		②		<p>話し合い活動の観察 ワークシート記入内容</p> <p>② ワークシート記入内容</p>
3	<p>I ねらい</p> <p>・体の発育・発達について、資料や友だちの話などを基に、課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明することができる。</p> <p>・思春期には、初経、精通などが起こること、異性への関心も芽生えること、これらは個人によって早い遅いはあるものの、誰にでも起こる大人の体に近づく現象であることについて、言ったり書いたりすることができる。</p> <p>II 学習活動</p> <p>1 「声当てクイズ」を行い、体の中の変化について考える。</p> <p>2 初経や精通について知る。</p> <p>3 体の中に起こる変化について考える。</p> <p>＜指導すべき内容＞</p> <p>・思春期には、初経、精通が起こること。</p> <p>・個人によって早い遅いがあるものの誰にでも起こる、大人の体に近づく現象であること。</p> <p>4 事例(隣の異性と手をつないでみよう)をもとに思春期には、異性への関心が芽生えることを知る。</p> <p>＜指導すべき内容＞</p> <p>・思春期には、異性への関心も芽生えること。</p> <p>・個人によって早い遅いがあるものの誰にでも起こる、大人の体に近づく現象であること。</p> <p>5 学習のまとめをする。</p> <p>6 学習した内容を活用し、将来の自分へのメッセージを考える</p>	①			<p>発言の観察 ワークシート記入内容</p> <p>③ ワークシート記入内容 内容発言の観察</p>
4	<p>I ねらい</p> <p>・体の発育・発達について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとすることができる。</p> <p>・体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であることについて、言ったり書いたりすることができる。</p> <p>II 学習活動</p> <p>1 よりよく発育・発達するために必要なことを話し合う。</p> <p>2 給食の献立から、体がよく育つために必要な食べ物につ</p>				

	いて調べる。 3 よりよい成長に必要な運動の仕方について話し合う。 4 休養と睡眠の役割について資料で調べる。 5 学習したことを自分の生活に当てはめて課題を見付け、 これからの生活の仕方について、解決方法を考える。	②			ワークシート記入内容
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;指導すべき内容&gt;            ・体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠などが必要であること。         </div>			④	ワークシート記入内容
	6 学習のまとめをする。				

8 本時の学習と指導（1／4）

(1) ねらい

- ・体の発育・発達について資料や友だちの話などを基に、課題や解決の方法を見つけたり選んだりするなどしてそれらを説明することができる。【思考・判断】
- ・体の年齢に伴う変化や個人差について理解したことを言ったり、書いたりすることができる。【知識・理解】

(2) 資料及び準備するもの 教科書、タブレット、大型テレビ、掲示資料、ワークシート

(3) 展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点（指導○ 評価◆）	
		T1（学級担任）	T2（養護教諭）
導入 8分	1 わたしは誰でしょうクイズを行う。 	T1 ○赤子→小学生という写真を見せながら、年齢に伴って身長などが変化していることを視覚的に理解できるようにする。 T2 ○「大きくなったね」や「身長がすごく伸びたね」など本単元に関わるキーワードをつぶやく。 ○事前の保護者アンケートを活用し、小学生の頃、変わりゆく体の変化に不安をもったというグラフを紹介することで、より身近なこととして捉えられるようにする。	
展	4 本時の学習のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;">             私たちの体は、どのように発育、発達（成長）しているのだろう。           </div> 5 実際の赤ちゃんを見たり、触れたりしながら、自分たちとの違いやできるようになったことを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             赤ちゃんの時と比べて、みなさんはどんなところが成長したでしょうか。実際の赤ちゃんに触れあいながら、成長したと思うところを発表しましょう。           </div>  	T1 ○実際の赤ちゃんに触れあうことで、自分たちが成長したことをより実感できるようにする。 T1 ○赤ちゃんに触れることに抵抗のある児童の所にいき、少しでも交流できるよう促す。 T2 ○違いを発見できない児童には、実際に手や足を自分と比べさせたり、だっこをさせてもらったりしながら、比べる視点を明確にする。	T2 ○年齢をかさねていくごとに身長が伸びていっていることを確認させる。
	6 一人一人の入学時から4年生までの伸びを表したテープ（すくすくテープ）を使い、自分の	T2 ○年齢をかさねていくごとに身長が伸びていっていることを確認させる。	

成長を確認する。

(1) これまでの伸びを確認し、これからの伸びを予想させる。

そのテープの長さはみなさんが入学したときから4年生までに伸びた一人一人の身長になっています。周りの人と比べてみましょう。

7 身長や体重は、年齢に伴って変化することを知らる。

指導すべき内容

- ・身長や体重は、年齢に伴って変化すること。

8 すくすくテープを使い、それぞれの成長の変化について話し合う。

(1) 1年間毎の伸びを確認する。

テープの途中で区切っているのは、皆さんがそれぞれの学年で伸びた身長を表しています。線に沿ってテープを切り、グラフを作りましょう。

(2) 各自が作ったグラフをグループ内で比べ、どんな発育の違いがあるかを話し合い、わかったことや気付いたことを話し合う。

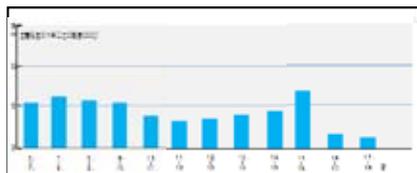
Q2 自分と他の人たちとを比べて、わかったことや気付いたことを話し合しましょう。



〈予想される児童の反応〉

- ・人によって伸び方が違う
- ・みんな大きくなっているのは同じ。

(3) 教科書や担任の先生の1年毎の成長の伸びを見ながら、個人差について確認する。

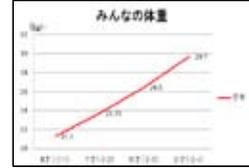
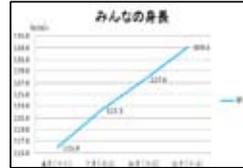


9 それぞれ体の変化（身長や体重）には個人差があることを知る。



T1 手が止まっている児童には、これまでの自分の身長の変化について振り返らせる。

T2 〇なぜ、そのような予想になったのかを聞きながら、机間指導を行う。



T2 〇年齢に伴って、身長が変化していくことを理解させる。

〇身長が伸びるといことは体重も年齢に伴って変化していくことを伝え、体重が増加していくことも自然なことということ伝える。

T1 〇点線毎に切らせて、ワークシートに貼らせる。

T1 〇良い話し合いをしている班全員のグラフをタブレットで撮影しておく。

T2 〇比べさせる際、違いを肯定的に受け止められるよう、助言する。

T1 〇タブレットを使いながら、相違点、共通点を発表させる。

◆体の発育・発達について、資料や友だちの話など基に課題や解決の方法を見つけたり選んだりするなどしてそれらを説明している。【思考・判断】

T1 〇これから自分たちが迎える体の変化についても個人差があることを教科書だけでなく、担任の先生も例としてあげることで、より身近なこととして感じさせるようにする。

T1 〇伸びる時期、男女での違い、同姓同士に着目させる発問を行う。

T2 〇発育がさかんな時期が2回あることや、その2回目を自分たちがこれから迎えることについても触れる。

T2 〇体の変化には個人差があることを理解させる。

〇「個人差」という言葉を知らせる。

開

展

開

20

分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈指導すべき内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の変化には個人差があること。</li> </ul> </div>	
ま と め 10 分	<p>10 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの体は、どのように発育、発達（成長）しているかをまとめる。</li> </ul> <p>【本時の学習のキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢にともなって ・個人差</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体は、年齢に伴って変化すること。また、体の発育、発達には、個人差があることについて確認する。</li> </ul> <p>11 保護者アンケートから成長について個人差を感じた体験談を聞き、アドバイスを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>わたしはまわりの友だちにくらべてなかなか背が伸びない。わたしの体はおかしいのかな？</p> </div>	<p>T1 ○学習カードに、体の変化のこれからについて記入させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆体の年齢に伴う変化や個人差について理解したことを言ったり、書いたりしている。【知識・理解】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「努力を要する」状況（C）と判断された児童への手立て（支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習内容を学習カードや黒板の板書などで振り返らせ、課題解決にあたるようにさせる。</li> </ul> </div> <p>T2 ○学習カードに記入した内容を、全体で確認する。</p> <p>T1 ○体の成長について悩んだ経験についての体験談を読むことで、体の変化に対する不安や悩みは、個人差はあるが、誰でも経験することを伝え不安を軽減させられるようにする。</p> <p>T2 ○質問したいことや不安や心配事があつたら、いつでも相談してよいことを伝え、保健指導につなげていく。</p> <p>○次の時間の予告をする。</p> 

9 板書計画



○まとめ内容

( 身長 ) や体重は ( 年齢 ) があがるにつれて、のびたりふえたりしていきます。  
 身長が急にのびたり、体重が急にふえたりする時期や変化する量は、ひとりひとり ( ちがう ) 。  
 このような、人によるちがいを ( 個人差 ) という。

## 2 実践事例 2 <食に関する指導> (熊谷市立大幡中学校)

平成29年度 埼玉県小・中学校食育指導力向上授業研究協議会

研究テーマ 健全な食習慣の形成と学力向上

～食育の研究を通して～

熊谷市教育委員会【実践中心校 熊谷市立大幡中学校】

### 1 はじめに

本校は、「高い志を持ち、確かな学力を身につける生徒」を学校教育目標に掲げ、知・徳・体のバランスの取れた生徒の育成を目指すとともに、熊谷市の進める「熊谷の子どもたちは、これができます！『4つの実践と3減運動』」を受け、朝ごはんをしっかりと食べることで学力の向上を図ることができるよう「健全な食習慣の形成」を位置づけ、研究に取り組んできた。

食育は、「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの（食育基本法前文）」で、生きる力の土台である。

食についての学びを通して、主体的に学ぶ力・根気強く学ぶ力を育てることにより、生徒の学力（知・徳・体のバランスのとれた力）の向上に繋がると考え、本主題を設定した。

### 2 取組

#### (1) 授業実践 等

##### ア 第1学年 家庭科「食品の選択と保存」

日頃、何気なく口にしている食品について意識をもたせ、嗜好や価格だけでなく、自らの健康を保持増進するために、よりよい食品を主体的に選択させる力を身に付ける授業を展開した。



第1学年 家庭科

##### イ 第3学年 保健体育科「健康な生活と疾病の予防」

運動や食生活、休養や睡眠などの生活習慣が健康と関わっていることを実感させ、生涯にわたって健康を保持増進するために適切な選択をし、自分の健康を管理し改善していく必要があることについて理解できるようにする授業を展開した。



第3学年 保健体育

##### ウ 第3学年 特別活動「正しい食事のタイミングとバランスについて考えよう」

栄養教諭とのTT授業で、学習において必要な食事や栄養素に関する知識を身につけ、どのようなタイミングやバランスで食事をとればよいのかについて学び合い、考えさせる授業を展開した。



第3学年 特別活動

##### エ 「食に関する」夏休みの全校課題

1日の食事内容を五大栄養素に分類して食事のバランスを振り返らせ、2回目は栄養バランスを意識して食事内容を工夫する。

##### オ HQC（ヘルスクオリティーコントロール）シートの活用

『よい生活習慣で心も体も健康になって、運動や勉強の力を伸ばそう！』ということを目的にした調査で、朝食の摂取状況と内容も記入させ、朝食摂取の習慣と食事内容を意識させた。



運動部対象 栄養指導

## カ 運動部生徒対象の栄養指導

食事の基本をはじめ、勝つための食事のとり方について栄養教諭が指導を行った。

## (2) 環境整備 等

### ア 食育コーナーの設置

各階に学年に応じた掲示物（1年生は「野菜について」、2年生は「スポーツと食事について」、3年生は「受験に向けて」）を作り、設置した。また、昇降口や、家庭科室前、給食室前



昇降口 食育コーナー



2学年 食育コーナー

にも食育コーナーを設け、食への興味関心を引くような工夫をした。

### イ 給食委員による生徒朝会

「食品ロス」をテーマに生徒朝会を実施した。劇を交えながら、自分たちができること『使い切る』『買いすぎない』『食べきる』ことを心がけるよう啓発した。



給食委員による生徒朝会

## (3) 家庭・地域との連携 等

### ア 学校ファームとの連携

地域の方の協力を得ながら学校ファームを活用し、さつまいもとじゃがいもの植え付け・収穫を行った。収穫したさつまいもは地区の文化祭において販売をし、じゃがいもはふかして地域の方と一緒に試食をした。



食育だより(学校総合体育大会に備えた食事)



じゃがいもの植え付け

### イ 保護者と生徒対象の料理講習会

日本乳業協会の方を招き、牛乳・乳製品を使った調理の実演、実習を行った。



料理講習会

### ウ 食育だよりの発行

食育だよりを毎月発行し、季節や学校行事とリンクさせた食に関する事柄を掲載し、生徒・保護者に情報を発信している。

## 3 おわりに

生徒の発達段階に応じた指導を継続してきた結果、朝食の摂取率が94.5%(6.3ポイント向上)、五大栄養素を意識した食生活を送れる生徒が85%(10ポイント向上)となった。朝食の摂取率が上がることで、午前中の授業での集中力の向上や授業への前向きな姿勢が見られるようになり、望ましい食習慣の向上とともに、新体力テストでの記録の伸び率が例年より高くなった。また、落ち着いた生活を送れる生徒が増え、思いやりの心が見える化が図られた。これからも「熊谷の子どもたちはこれができます!『4つの実践と3減運動』」を土台として、各教科・領域で発達段階に応じた指導が行われるよう、「食育」との関連を年間指導計画に位置づけ、「食育」への関心を日常化・継続化し学力向上を目指していきたい。



